

Johann Nepomuk Tröndlin (ヨハン・ネポムク・トレンドリン)

製造年: 1835 年頃

外装: マホガニー(飾りのライン入り。屋根内側および側板内側はカエデ。)

奥行き: 205cm

音域: $F_1 - g^4$ (6 オクターヴ + 1/4 音、75 鍵)

アクション: ウィーン式(跳ね上げ式)

2ペダル: ダンパー、シフト



1835 年、ドイツのライプツィヒで作られ、1988 年にドイツのノイペルト社によって修復されました。ウィーン式アクションを備えた繊細で美しい音色が魅力的な楽器です。

制作者 ヨハン・ネポムク・トレンドリンについて

《略歴》

1790 年 ドイツの南西部フライブルクに生まれる。ドイツ南部やウィーン、ブタペストで職業訓練を行った後、1821 年よりライプツィヒの楽器店でクラヴィアバウアーとして働く。1824 年ライプツィヒに自身の工房を構え、1855 年までのおよそ 30 年間にわたりピアノを製作する。1862 年に亡くなる。

トレンドリンはウィーンでの修行時代、18 世紀の天才楽器製造家ヨハン・アンドレアス・シュタインの 13 番目の息子、マテアス・シュタインの元で学んでいます。マティアス・シュタインはベートーベンと関係が深かったナネット・シュトライヒャーの弟に当たる人物で、マティアスのピアノをベートーベンが弾く時期もありました。当初、シュタイン一族の製造する楽器は、いかにフォルテを出し切るかではなく、弱音を美しく歌い上げること、ダイナミズムがフォルテ側ではなくピアノ側に作られていることに特徴がありました。

しかし、1810 年代にベートーベンとナネット・シュタイン、マティアス・シュタインらの研究で次世代の新しい音楽に対応するためのピアノが考案されます。それは大きな音のするウィーン式ピアノで、この頃からシュタイン一族のピアノはダイナミクスをフォルテ側に拡張し出したのでした。

トレンドリンは、そのシュタイン一族の製造美学を受け継いでいる制作者です。この 1835 年製と思われる楽器は、メンデルスゾーンやクララ・シューマンなどが愛した楽器として知られ、ライプツィヒゲバントハウスに常設されていました。